

2026 年度東京情報大学 入学試験募集要項

大学院総合情報学研究科総合情報学専攻〔博士前期課程〕

【出願予定の方は、必ず出願前に志望する研究科の指導教員と面談を実施してください】

①指導希望の系列を探す

▶系列について：<https://www.tuis.ac.jp/department/graduate/curriculum/>

②指導希望の教員を調べ、メールなどで直接先生に面談（ZOOM 可）依頼をする

▶指導教員について：本紙 P7～P10「16. 研究指導等の内容」の教員から探す

▶教員の連絡先：<https://www.tuis.ac.jp/teacher/>

③面談実施後、「出願者調査書（本学指定様式）」に面談日と面談者を記入する

■募集人員 総合情報学研究科 総合情報学専攻（博士前期課程） 15 名（一般・社会人あわせて）

区分	出願期間〔必着〕	試験日	合格発表日	入学手続期間〔消印有効〕
I 期	2025 年 9 月 12 日(金)～9 月 24 日(水)	2025 年 10 月 4 日(土)	2025 年 10 月 16 日(木)	2025 年 10 月 16 日(木)～10 月 30 日(木)
II 期	2026 年 1 月 13 日(火)～1 月 26 日(月)	2026 年 2 月 6 日(金)	2026 年 2 月 19 日(木)	2026 年 2 月 19 日(木)～3 月 4 日(水)

1. 出願資格

以下のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び 2026 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2026 年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2026 年 3 月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2026 年 3 月までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び 2026 年 3 月までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年文部省告示第 5 号)
- (8) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (9) 本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22 歳に達した者及び 2026 年 4 月 1 日時点において 22 歳に達する者

【注 1】出願資格(8)により入学した学生は、大学を中途退学して本大学院に入学する取扱いとなる。

【注 2】出願資格(8)又は(9)による出願を希望する者は、入学資格認定を行う。(II 期募集のみ適用)

※詳細は「18. 出願資格(8)又は(9)による出願」を参照のこと。

【注 3】社会人は、企業・官公庁等において、2026 年 4 月 1 日の時点で 1 年以上の実務経験を有する者

<出願資格(8 または(9)による出願>

この入学資格認定を受ける場合は、事前に入試広報課に連絡すること。

申請期間	2025 年 11 月 19 日(水) ～ 11 月 27 日(木) <郵送必着・窓口>
------	----------------------------------------------

審査書類	【資格(8)の申請書類】	(1) 入学試験入学資格認定申請書 (2) 志望理由書 (3) 出身大学(学部)の在学証明書 (4) 出身大学(学部)の成績証明書 (5) 出身大学(学部)長の推薦書 (6) 出身大学(学部)の履修規程
	【出願(9)の申請書類】	(1) 入学試験入学資格認定申請書 (2) 志望理由書 (3) 研究業績 (4) 最終学校の成績証明書 (5) 最終学校の卒業証明書 (6) 審査の対象となり得る論文・投稿文等(コピー可)
結果通知	文書にて通知	

2. 出願方法

出願の手続きにおいて、一部インターネットでの登録が必要となります。手順は以下のとおりです。

①インターネット出願サイトにアクセス

本学ホームページから「大学出願ネット(<https://tuis.univentry.net/>)」にアクセスします。

②新規出願登録(メールアドレスの登録)を行う

メールアドレスを入力し送信後、登録したメールアドレスに認証コードがすぐ届きます。認証コードを入力し、次へ進んでください。

③顔写真のアップロード、出願者情報入力

受験票の顔写真データを登録画面上にアップロード(3MB以内のJPEGデータ)し、画面の入力指示に従って、氏名・住所などの個人情報を入力してください。

④入試制度など登録

学部学科、入試制度などを選択してください。

⑤入学検定料のお支払い

検定料のお支払い方法を選択し、出願期間内に検定料(30,000円)を選択し、納入してください。

振込手数料は、大学が負担します。

<支払方法> ▼クレジットカード決済 ▼コンビニ ▼Pay-easy(インターネットバンキングやATMなど)

⑥必要書類の印刷

『出願状況の確認』にログインをして、「志願確認票」を印刷してください。

その他必要な書類は、大学ホームページからダウンロードしてください。

⑦必要書類を郵送

印刷した「志願確認票」とその他必要書類(調査書等)を全て揃え、ダウンロードした「宛名ラベル」を市販の封筒(角 2 サイズ: 24×33.2cm)に貼付し、出願期間内に「書留・速達(朱書き)」で郵送(必着)してください。

⑧出願完了、受験票の印刷

必要書類の受理・入学検定料の入金が確認されると、登録されたメールアドレスに「出願完了メール」が送られます。受信したメールを確認し、受験票を各自印刷し、試験当日に持参してください(受験票の記載内容を必ず確認してください)。記載内容の修正をしたい場合は、大学出願ネットサポートセンター(電話 042-732-3951)までお問い合わせください。

3. 出願書類

必要書類	内容
志願確認票	大学出願ネットの出願状況ページから各自ダウンロードし、プリンターで印刷。
出願者調査書	<p>本学所定の様式に必要な事項を記入すること。出願前に、指導希望の指導教員と面談(ZOOM可)を実施したうえで、指導教授名を記入すること。</p> <p>▶指導教員について：本紙 P7～P10「15. 研究指導等の内容」の教員から探す</p> <p>▶教員の連絡先：https://www.tuis.ac.jp/teacher/</p>
志望理由書	<p>以下の全項目について作成すること(様式自由)</p> <p>①進学 of 動機(500 字程度) →あなたの進学 of 動機について述べてください。</p> <p>②現在の研究 of 詳細(1,000 字程度) →あなたの現在の研究テーマや主な学習内容 of 詳細について述べてください。</p> <p>③入学後の研究内容、方法(500 字程度) →あなたの本大学院における入学後の研究内容、方法や構想について具体的に述べてください。</p> <p>④博士前期課程終了時の到達目標(500 字程度) →就職や将来 of 展望、キャリアプランなどを含め、博士前期課程修了時の到達目標について述べてください。</p> <p>⑤研究発表 of 状況または予定〔社会人受験者のみ〕(字数制限なし) →研究発表 of 状況(発表年月日・概要・媒体等)または予定について列記してください。</p>
成績証明書(和文または英文)	<p>出身大学の学長または学部長によって作成された厳封されたもの。なお、大学院修了(修了見込み)の者は、学部と大学院の両方を提出(発行日から3ヶ月以内のものに限る)</p> <p>※GPA 第3位まで算出されたものを提出すること</p>
卒業証明書または卒業見込証明書(和文または英文)	出身大学によって作成されたもの。大学院を修了(修了見込み)の者は、学部と大学院の両方を提出。(発行日から3ヶ月以内のものに限る)
推薦書(和文または英文) ※任意	出身大学の指導教授によって作成されたもの。会社にあつては所属の長によって作成されたもの。なお、提出は任意とする。
住民票 ※外国人留学生	外国籍(定住者、永住者、日本人・永住者の配偶者等を除く)の者に限り必要とする。在留資格、在留期間が記載されたもの。
日本語の能力を表す書類 ※外国人留学生	外国籍の者に限り必要とする。日本学生支援機構の日本語能力試験1級の成績通知書または日本語学校の成績証明書等。ただし、日本の大学を卒業した者(見込み者含む)については不要。
大学院入学資格認定書 ※Ⅱ期受験者で必要な者	出願資格(8)、(9)による出願を希望する者のみ提出すること。

※その他、上記書類以外に本研究科が必要とする書類がある場合、提出を求めています。

4. 検定料

30,000 円(インターネット出願システム「大学出願ネット」上で支払い方法を選択します)

5. 選抜方法

試験時間	一般	社会人	試験時間	備考
10時00分～11時00分	外国語 (英語)	—	60分	英語辞典1冊の持ち込み可。 ただし、電子辞書等の電子機器類の持ち込みは、不可。
11時30分～12時30分	筆記試験	筆記試験	60分	—
12時45分～	口述試験	面接	15分程度	—

6. 試験会場・試験時間

	試験日	試験時間	試験会場
I期	2025年10月4日(土)	【集合:一般】9時30分 【集合:社会人】11時00分 【外国語】10時00分～	東京情報大学(千葉県千葉市若葉区御成台4-1)
II期	2026年2月6日(金)	【筆記試験】11時30分～ 【口述試験・面接】12時45分～	

※試験当日は、受験票を持参してください。

7. 注意事項

- ・出願の際に入力した情報および提出した出願書類に不備があった場合、出願を受け付けないことがありますので、十分注意してください。提出された書類等に不明な点があった場合は、入試・広報課から連絡をしますので、速やかにその指示に従ってください。
- ・送付された書類および納付された検定料は、原則として返還しません。
- ・出願時に収集した個人情報(住所・氏名・生年月日等)を、入学試験実施、合格者発表、入学手続およびこれらに附随する業務のために利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。また、上記業務の全部または一部を委託する場合があります。その場合、委託先に対し、契約等により必要かつ適切な管理を義務付けます。なお、個人が特定されないように統計処理した個人情報を、大学における入学者選抜のための調査・研究の資料として利用します。あらかじめご了承ください。
- ・身体機能等の障害や疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、出願開始日の1か月前までに必ず入試・広報課までお問い合わせください。

8. 不正行為について

- (1) 次のことをすると不正行為となることがあります。
- ①出願時に、本学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があること。
 - ②カンニング(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど)をすること。
 - ③使用を認められていない用具を使用して問題を解答すること。
 - ④受験票(表・裏ともに)をメモ代わりに使用するなど、何らかの書き込みをすること。
 - ⑤試験時間の合図、もしくは試験監督者の試験開始の指示の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
 - ⑥試験終了の合図、もしくは試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
 - ⑦試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
 - ⑧試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末や携帯音楽プレーヤー等を身に付けていること。
 - ⑨試験時間中に、携帯電話・時計・携帯音楽プレーヤーの音(着信、アラーム、振動音等)を鳴らすこと。

- ⑩試験時間中に、問題冊子や解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ⑪試験室において、試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑫試験室において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑬志願者以外の者が、志願者本人になりすまして試験を受けること。
- ⑭試験終了後、解答用紙を提出しないこと。
- ⑮その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(2) 不正行為が疑われる場合は、注意をすることや事情を聴取することがあります。

(3) 試験の際に不正行為があったと認められた場合には、受験した入学試験の成績を無効とし、当該年度に行われる入学試験の受験は認めません。また、入学検定料も返還しません。

9. 合格発表

I 期	2025 年 10 月 16 日(木)13 時 00 分
II 期	2026 年 2 月 19 日(木)13 時 00 分

- ・大学出願ネットの「出願状況の確認」から合否が確認できます。
- ・発表は、合格発表日の 13 時 00 分から行います。
- ・発表開始時刻直前は WEB サイトへのアクセスが集中する恐れがあります。画面が開きにくい場合は、時間をずらして WEB サイトにアクセスするようにしてください。
- ・合否に関して電話および大学構内の掲示、郵送による合否発表は行いません。
- ・郵送による合否通知の発送は行いません。合格通知が必要な方は、「入学手続システム」からダウンロードする“振込依頼書”を使用してください。

[合否確認方法]

- ①大学出願ネットにログインし、「出願状況の確認」ボタンをクリックします。
- ②「詳細確認」ボタンをクリックします。
- ③「出願状況詳細」ページの画面下に合否が表示されます。
- ④「入学手続はこちら」ボタンをクリックすると、入学手続画面に遷移します。

① 合格発表済み

学部	学科	受験番号	合否	お支払い状況
大学院	総合情報学研究科	302002	合格	<ul style="list-style-type: none"> ■ お支払い方法：窓口支払 ¥ お支払い金額：30,000円 ● お支払い状況：入金済み ■ 受験番号：302002

10. 入学手続

I 期	2025 年 10 月 16 日(木)～10 月 30 日(木)
II 期	2026 年 2 月 19 日(木)～3 月 4 日(水)

- ・本学の入学手続は、WEB による入学手続システムを使用します(以下、「入学手続システム」)。入学手続を完了するためには、入学手続システムによる「WEB 登録」、「入学金等の納付」、「提出書類[消印有効]」の3つをもって、完了とします。
- ・ログインには、「受験番号、出願時に登録したメールアドレス」が必要です。
- ・入学手続時には、①誓約書(本学所定様式)②住民票などの書類が必要です。詳細は、「入学手続要項」でご確認ください。
- ・インターネット出願時にアップロードした顔写真データは、入学手続時には引き継がれません。学生証に使用する顔写真を再度アップロードしてください。
- ・登録するメールアドレスが icloud のメールアドレスの場合は、ドメイン指定をしても届かない場合がありますので、他のメー

1.1. 納付金

入学手続時には、「分納 1/2 回目分」の金額を納入することとなります。

(分納 2/2 回目分は、入学後、口座振替による納付を予定しています)

単位 (円)

研究科			大学院前期						
学年			1年次		2年次				
区分			1年分	分納		1年分	分納		
				1回目分	2回目分		1回目分	2回目分	
納 付 金 内 訳	入学金		270,000	270,000					
	授業料		780,000	390,000	390,000	810,000	405,000	405,000	
	演習費		160,000	80,000	80,000	160,000	80,000	80,000	
	整備拡充費		150,000	75,000	75,000	150,000	75,000	75,000	
	諸会費(代理徴収)		25,000	25,000		25,000	25,000		
	諸会費内訳	後援会	入会金	10,000	10,000				
			年会費	10,000	10,000		10,000	10,000	
		校友会	入会金	5,000	5,000				
終身会費						15,000	15,000		
納付金合計			1,385,000	840,000	545,000	1,145,000	585,000	560,000	

後援会: 父母により構成され、父母と大学との親睦を深めるとともに、在学生の勉学や学生生活の充実を図る活動を支援することを目的とする。

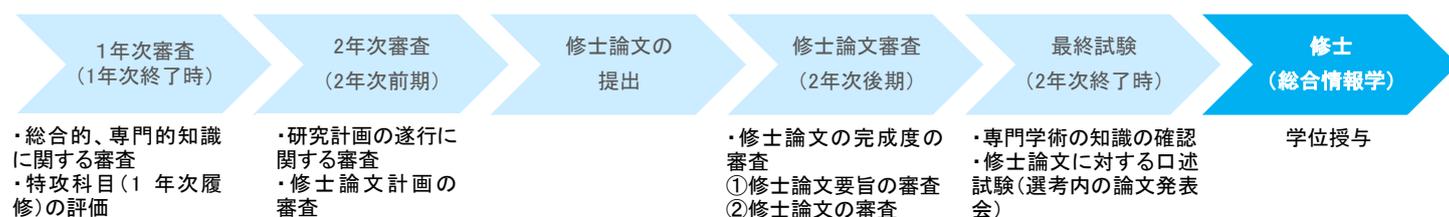
校友会: 卒業(修了)生相互の親睦と社会活動の助長を図り、本学および学校法人東京農業大学の発展に寄与することを目的とする。

1.2. 入学辞退

入学手続完了後に入学を辞退する場合は、所定の手続きを完了することにより、入学金を除く納付金を返還します。

入学辞退による納付金の返還請求書期限は、2026年3月31日(火)15時00分(本学必着)です。

1.3. 学位取得までの流れ、学位



1.4. 博士前期課程修了の要件

- (1) 博士前期課程に2年以上在学していること
- (2) 所定の授業科目について、34単位以上修得していること
- (3) 必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること

1.5. 学位

本大学院博士前期課程修了者には、「修士(総合情報学)」の学位を授与する。

16. 研究指導等の内容（2026年度予定）

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム系列	教授	川勝 英史	社会や経営における問題を数理モデルやシミュレーションモデルにより解析する。また、音楽情報処理に係わる研究も行う。前者の例の1つとして、次のようなものがあげられる。企業の組織デザインが、そのイノベーションに与える影響について定量的に分析する。マルチエージェント及び強化学習の手法を含め、定量的手法を積極的に応用し、予測される効果や組織変革の過程を数値化・可視化し観測することを試みる。
情報システム系列	教授	佐野 夏樹	購買履歴データや各種のセンサーデータ等、世の中に存在する多くのデータから有意義な知見を抽出するためには、通常、分析の目的に応じた分析用データセットを作成した後、各種の統計手法や機械学習手法が適用される。本研究室では、分析用データセットを作成するためのデータハンドリング技術から分析結果を適切に解釈するために必要な数理的背景の理解まで総合的な分析能力の育成を行う。また分析手法を外れ値等の異常値に対して、より頑健にするために、従来手法の改良や分析者が事前に決めなければならないハイパーパラメータの設定法、および、第三者にデータ提供する際の原データの匿名化、合成データ生成といったデータ分析に付随するテーマも対象とする。
情報システム系列	教授	鈴木 英男	<p><一方向性ハッシュ関数の応用に関する研究></p> <p>代表的暗号学的に安全な一方向性ハッシュ関数には、MD5、SHA-1、SHA2、SHA3 (Keccak)などがある。研究は次のステップで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず、これら基本アルゴリズムの構造を徹底的に理解する。 2. 使用するアルゴリズムを選定する。 3. 選定したアルゴリズムのプログラムを理解し、プログラムを数ブロックに分割し、スピードへの影響度を調べる。 4. 選定したアルゴリズムを応用する用途を考える。 5. 一方向性ハッシュ関数を応用したプログラムを開発する。
情報システム系列	教授	富田 瑞樹	<p><空間情報科学に関する情報技術を応用した生態学的研究></p> <p>生物資源の供給や気候の調整など、人間の福利に欠かせない生態系サービスをもたらす生物多様性が、土地開発や乱獲、外来種の侵入、社会経済的構造の変化、気候変動などの影響により低下しつつある。地域で、あるいは世界的に進行しつつある生物多様性の危機に対応するためには、個体群生態学や群集生態学、景観生態学などの生態学に関する知識や経験と、地理情報システムやリモートセンシングなどの空間情報科学に関する情報技術の応用、Web等に公開された環境データの処理技術、フィールド調査の計画策定手法、調査によって得られたデータの解析技術が必須である。</p> <p>本研究室では、生態学における様々な課題の解決と空間情報科学に関する情報技術の習得を目標に研究活動を進めている。博士前期課程への進学に際しては、指導教官との事前面談が必要である。</p>

研究指導 の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム 系列	教授	朴 鍾杰	<p><衛星データを用いた時系列環境解析及び機械学習による物体認識に関する研究></p> <p>近年異常気象によって地域的に災害が頻繁に起り、いったん発生すると社会的・経済的損失が大きい。地球環境解析は人間と自然が調和として捉え、地域レベルから地球レベルへ発展しながら因果関係を考える。エルニーニョ現象やラニーニャ現象による地域的異常気象の影響(洪水や干ばつ、高温や低温現象)はその地域から遠く離れた場所の大気と海洋の環境変化によってもたされた結果(テレコネクション)である。そのため、グローバル衛星データを用いて時系列的異常変化地域の抽出と環境変化パターンを調べローカルへの影響を予測する。本研究では衛星データ(MOIDS、Landsat など)を用いて自然災害(洪水や干ばつなど)における実被災状況の分析と気候条件による被災予測をシミュレーションによって行う。</p> <p>一方、画像認識では機械学習による物体認識を行う。地震や地すべりなど被災範囲が狭い地域では高解像度衛星やドローン画像を用いて機械学習による被災状況を解析する。機械学習によって得られた被災状況図(土砂崩れや倒壊建物など)は地理情報システム(GIS)と連動し解析することでより迅速な人命救援活動に必要な重要なデータの一つになる。</p> <p>本研究では、デジタル画像から得られる特徴を調べ、その特徴が何を意味しているかを考える。また、機械学習によって迅速かつ正確に解析することを研究する。</p>
情報システム 系列	教授	花田 真樹	<p><次世代のネットワーク・セキュリティ技術に関する研究></p> <p>次世代のネットワーク技術・セキュリティ技術に関する研究を行う。現在、次世代の ICT 基盤となる様々なネットワークが提案され、発展してきている。代表的なネットワークとして、コンテンツ指向ネットワーク、センサネットワーク、アドホックネットワーク、P2P ネットワークなどがある。各種ネットワークでは、そのネットワーク固有の通信性能や通信品質に関する問題が存在する。</p> <p>本研究では、各種ネットワークの通信性能や通信品質に関する問題点を整理し、それらの問題点を解決するためのネットワーク技術に関する高度な研究を行う。加えて、近年のネットワークの発展に伴い、ネットワークを介したサイバー攻撃も急増している。安全性確保の観点から、各種サイバー攻撃に対処するためのセキュリティ技術として、Web サイトへの攻撃検知・防御手法や Web サイトの診断手法、悪性サイト解析・検知手法、マルウェア解析・検知手法などに関する高度な研究を行う。</p>
情報システム 系列	教授	原田 恵理子	<p><情報社会における学校教育臨床及び教育実践学に関する研究></p> <p>子どもたちを取り巻く環境の変化を的確にとらえ、時代や社会の要請と新しい教育の潮流を見据えて、児童・生徒の資質・能力を適確に評価できる観点を持った確かな授業実践力、ICT を活用した教育の可能性と、教育現場における諸課題に対して、発達心理学、教育心理学、臨床心理学等の心理学の基礎理論、理論と実践を結び付ける教育実践学を学び、深い理解と考察力が求められる。そこで本研究室では、生徒指導・教育相談上の課題や、予防教育・発達支援等への対応、特別の教科道徳やキャリア教育の推進に対し、「チーム学校」として組織的・協働的に対応するための基礎的・実践的専門知識を深化させることを目的に学校教育臨床及び教育実践学をテーマに掲げ、研究やプログラム開発を行う。研究から得られた知見を生かして、現場と連携した実践を進める。</p>

研究指導 の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム 系列	教授	マッキン ケネスジェームス	<p><ソフトコンピューティングの応用に関する研究></p> <p>ソフトコンピューティングは、従来手法では解析できない、あるいは扱いにくかった複雑な問題を取り扱う計算技法の総称である。人工ニューラルネットワークや、遺伝的アルゴリズム、ファジィ理論などに代表されるソフトコンピューティング手法は、不精密さ、不完全さ、不確かさを許容し、扱いやすさ、頑強性、低計算コストを達成することを目的とする。このようなソフトコンピューティング手法は、実世界の複雑であいまいな問題の解決に重要な役割を果たす。</p> <p>本研究では、ソフトコンピューティングの実問題への応用を行う。またその過程において、適用するアルゴリズムの改良を検討し、ソフトコンピューティングの応用に関する新しい知見を獲得することを旨とする。</p>
情報システム 系列	教授	村上 洋一	<p><生体分子間の相互作用メカニズム及び相互作用予測に関する研究></p> <p>生体内では数多くの生体分子が働いて生命活動を支えており、互いに相互作用してネットワークを形成し、さまざまな生物学的な機能を生み出している。そのような生命活動において重要な生体分子の分子機能だけでなく、そのネットワークの全体像やさまざまな生物学的機能を生み出すメカニズムを明らかにするためには、生体分子間相互作用に関する深い理解が必要である。本研究では、生体分子間相互作用の理解、また創薬を支援するシステムの開発を目指して、以下の2つの研究に取り組む。</p> <p>(1) 生体分子間相互作用の進化的及び物理化学的な解析: 生体分子の分子認識メカニズムや分子機能の解明を目指して、生体分子の配列や構造、また相互作用データなどの進化的及び物理化学的な特徴を解析する。</p> <p>(2) 生体分子間相互作用を予測するためのシステム開発: (1)の解析から得られた知見に基づいて、標的とする生体分子の機能的に重要な相互作用部位や相互作用相手を予測する手法を開発する。</p>
社会情報 系列	教授	圓岡 偉男	<p><情報社会の理論社会学的研究></p> <p>現代の情報社会の問題を理論社会学的に研究する。とくにコミュニケーションにまつわる問題を集中的に取り扱う。理論社会学的な視点から情報社会を検討することになるが、必要に応じて社会調査などの実証的手法を用いて現実の問題に対応する。本研究指導は、情報社会に起因した社会問題の本質を理論的に考察することにもとづいた指導となる。</p>
社会情報 系列	教授	堂下 浩	<p><金融市場における資金需要者の債務行動に関する研究、及びベンチャー企業の資金調達に関する研究></p> <p>金融市場の実態を資金需要者の観点から実証研究する。一般に金融システムに関する研究は債権者側からマクロ的な視点で捉える傾向が強いが、本研究では資金需要者の観点から金融市場の実態と法制度のあり方について考察する。特に、金融市場でも信用リスクの高い借り手である、中小零細事業主や消費者の債務行動に注目して研究を行う。また博士前期課程では、その研究範囲を拡げ、ベンチャー企業のスタートアップ期における資金調達の実態に関しても、実証データや様々な事例を通して研究する。さらには、こうした高リスク層における金融取引で注目されるフィンテックについても調査対象とする。特にフィンテックの意義を利用者の観点から考察し、あるべき法制度についても検証したい。</p>

研究指導 の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
社会情報 系列	教授	西村 明	<p><音メディアとコンテンツの知覚・認知・感性情報処理および価値拡張に関する研究> 音メディアとそこで流通する音コンテンツを処理する技術は、メディア技術と信号処理の発達によって、既に現代社会に広く普及している。今後は、既存の音コンテンツの価値を守り、その価値をさらに高め、新しいコンテンツの価値を創り出し、それらコンテンツの価値を測る研究が、さらに求められている。こうした現状を踏まえ、人間が音という情報をどのように処理しているかに関して、知覚、認知、感性それぞれの面から探求するという人間音情報処理システムの研究をテーマとして掲げる。さらに、それらを基礎としたうえで、音のセキュリティ、メディア品質の向上とその評価・測定、新しい音コミュニケーション技術の開発と評価、マルチメディアインタラクション、エンターテインメントなど、さまざまな音に関する新しい応用分野を切り拓くことも研究テーマとする。</p>
社会情報 系列	教授	松下 孝太郎	<p><画像処理およびコンピュータグラフィックスとそれらの教育への利用に関する研究> 近年のコンピュータ関連技術全般の進展により、パソコンをはじめとする身近なコンピュータでの高精細な画像やコンピュータグラフィックスの表示が可能となるに至っている。さらにはネット環境の充実により、遠隔でこれらの技術を使用することが可能である。</p> <p>本研究室では、画像処理、コンピュータグラフィックスの基礎から応用研究、さらにはこれらの教育への利用に関する研究・教育を行っている。</p> <p>画像処理では、画像特徴抽出や画像追跡アルゴリズムの開発、コンピュータグラフィックスで、表示システムやコンテンツの開発などを行っている。またこれらに Web 技術を組み合わせることにより、視覚的効果の高い教育用の学習システムの開発などを行っている。</p>
ヘルスケア 情報系列	教授	山口 豊	<p><心理的課題からのヘルスケアに関する研究></p> <p>身体的、精神的、社会的に健康であることは、人々のウェルビーイングを支える要因である。ただ、現代は「ストレス社会」であり、悪性ストレスが心身に否定的な影響を与え、QOL を低下させ、生活習慣病や精神疾患要因になることもある。そのようなことから、保健医療従事者は、患者の健康維持のため、心理社会的情報に焦点を当て、ヘルスケアを実践していく必要がある。そこで、本研究科においては、ヘルスカウンセリング学・臨床心理学・行動科学の知見や心理療法を通して、患者やクライアントのウェルビーイング実現のためのヘルスケアについて研究する。特に、博士前期課程においては、ヘルスケアにかかわる心理的課題の実態調査を実施する。</p>

17. 講義概要一覧

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【基礎】共通	総合情報学総論	2		情報技術がわれわれの社会生活に深く浸透しつつある現在にあつて、それがもたらす正負両側面を見据えながら、情報に関する事柄を学ばなければならない。そして、多方面の研究領域から今後の情報分野における展望や研究のあり方などを知ることが、情報関係を学ぶすべての大学院生に必須であると考えられる。本講「総合情報学総論」は、そのような現状を踏まえ、本学大学院総合情報学研究科の専門領域を異にする本学教員が、各方面からのテーマ設定のもとで、自らが専門とする研究テーマを解説し、討論を行うものである。
	知能情報特論	2		現在、知能情報処理はツールとして、ネットワークアクセスデータ、衛星データ、社会データ、医療データなど、様々な分野のデータ解析に広く用いられている。しかし、知能情報処理にも様々な手法があり、どのようなデータにどの手法が向いているのか、初学者には分かりにくい。本講義は、系列を問わず知能情報処理の初学者を対象に、知能情報処理の初歩を理解することを目指す。本講義では、知能情報処理の基本的な処理内容を解説し、既存の知能情報処理ツールの使い方を学ぶ。形式の違う様々なデータの解析を実際に体験することで、それぞれの手法の違いや特徴を学ぶ。
	情報社会特論	2		本講義は、情報社会について科学社会的な立場から考察を行う。現代の情報社会に対する「社会」としての「情報社会」の考え方が検討される。一方で、現象としての情報社会の本質にある人間関係の特性が検討される。それは社会のもつ基礎構造の検討であり、「情報」の現代的展開の検討が行われる。このことをとおして情報社会の基礎理解の構築を目指す。
	ヘルスケア情報特論	2		急速に複雑多様化するヘルスケア分野の情報を歴史的に外観するとともに、施設や地域における保健医療福祉の効率的な運用を図るために求められる情報システムの構築と運用、およびヘルスケア分野における未来の在り方について創造的な発想のできる人材育成を目的とする。また、今後のヘルスケア情報に必要とされるデータベースの在り方や、生体観察ツールとしてのデバイスの理解、および AI や IoT 時代に向けた情報の在り方についての理解も深める。
	データマイニング特論	2		データマイニング(Data mining)とは、統計学や人工知能などの分析手法を駆使して、様々なソーシャルデータや各種情報機器のログデータなどの膨大で多様なデータの中に潜んでいる規則性や法則性を見つけ出し、「知識」を見出すための技術である。本講義では、データマイニングの概要と種々の分析手法に関して基礎的な事項の説明から始め、分析手法の適用に必要な理論を解説する。そして、分析手法を実際の問題に適応し、その結果がどのように問題解決に活用できるかを学習していく。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 情報システム	分散・並列処理システム特論		2	システムの高性能化を実現するためには、コンピュータの性能を最大限に引き出すための分散処理方式や並列化技術が必要である。本講義では、コンピュータ性能を引き出すためのコンピュータのシステム構成からマルチプロセッサ処理方式、メモリ構成方式、並列分散に関連するオペレーティングシステム、並列化言語、コンパイラ並列化技術、並列プログラミング、開発支援などの並列化処理技術について理解を深める。
	画像情報特論		2	コンピュータ上での画像情報の処理についての講義を行う。主に 2 次元画像を取り扱うが、時間があれば 3 次元画像について学習する。講義では時折、プログラム言語による画像処理の演習を行う。 講義と演習課題を通して、画像情報の処理について、理論と実践の両側から理解を深める。
	組み込みシステム特論		2	組み込み機器に向けたプロセッサを用いたシステム開発について学ぶ。まず、組み込みシステム開発の基礎を学ぶ。そして、マイコンボードとセンサ等を接続し、実稼働するシステムを開発する。対象となるマイコンは低性能で安価な MCU の代表として AVR を、高性能な MPU の代表として ARM Cortex-A シリーズを用いる。実習を積極的に行うことで典型的な組み込みシステムのソフトウェア開発を実践的に学ぶ。
	ウェブアプリケーション特論		2	情報システムの主要技術である Web システムに関して、基本的な仕組みの理解、開発技術の修得、実社会での活用方法など、Web に関する様々な知識・技能の修得を目指す。具体的には、HTTP の基本、Web サーバの仕組み、Web アプリケーションフレームワーク、Web API、クラウド技術などを取り上げる。授業時に Web 技術に関するトピックを取り上げ、各自で決めた担当テーマを調査してプレゼンする。
	ソフトウェア工学特論		2	大規模なソフトウェアを組織的かつ効率的に開発する技法について体系的に学習する。ソフトウェア開発を、要件設計フェーズ、プログラム開発フェーズ、テストフェーズに分類し、各フェーズの目的、主な技法と成果物 (Java プログラムを含む) の作成方法を学習する。学習目標とするソフトウェアに、それらの技法を適用することで、実務的な技法の習熟、および、ソフトウェア工学に関する学術研究の素地を養う。
	データベース特論		2	データベース全般における知識および技術を網羅的に学び、さらに Web システムとの連携や応用について理解する。具体的には、リレーショナルデータベース (RDBMS) から近年広がりを見せる NoSQL の基礎と応用を理解し、Web を含むさまざまなシステムに適した設計および構築ができることを目標とする。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 情報システム	情報ネットワーク特論 A		2	本講義では、情報ネットワークの設計や制御における理論的な側面に着目し、基礎理論から応用技術を習得する。特に、有線ネットワークを中心に扱う。講義では、まず、情報ネットワークにおける通信品質(遅延、スループット、パケットロスなど)に関する理論的な理解を深める。次に、情報ネットワークにおける通信計測技術と通信キャプチャ技術に関する理解を深める。最後に、先端のネットワーク技術などについても調査し、理解を深める。
	情報ネットワーク特論 B		2	本講義では、ワイヤレス・モバイルネットワークの設計や制御における理論的な側面に着目し、基礎理論から応用技術を習得する。講義では、まず、無線通信における通信品質に関する理解を深める。次に、無線通信で用いられているネットワーク技術に関する理解を深める。最後に、無線通信に関する先端のネットワーク技術(5G、IoT)などについても調査し、理解を深める。
	暗号理論特論		2	本講義では、整数論を理解した上で、整数論と計算量理論を基礎とする現代暗号理論のプリミティブとその役割、各暗号アルゴリズムのプログラミングについて学ぶ。
	ネットワークセキュリティ特論 I		2	コンピュータネットワーク上でのセキュリティ問題について、主にソフトウェア的側面から解説を行う。特に、インターネット上でのセキュリティホールとその防御法について詳細に講義を行う。ネットワーク上でのセキュリティを向上させるには、攻撃者(クラッカー)の攻撃手段を熟知することが必要不可欠であるので、それらの点についても詳しく講義し、実際にシステムを構築しての実験実習も行う。
	ネットワークセキュリティ特論 II		2	コンピュータネットワーク上でのセキュリティ問題について、主にソフトウェア的側面から解説を行う。特に、インターネット上でのセキュリティホールとその防御法について詳細に講義を行う。ネットワーク上でのセキュリティを向上させるには、攻撃者(クラッカー)の攻撃手段を熟知することが必要不可欠であるので、それらの点についても詳しく講義する。また情報セキュリティスペシャリストの資格取得を目指して過去の試験の午後問題の演習も行う。
	人工知能システム特論		2	人工知能とは、人間のように知的に考え、行動する人工システム(コンピュータプログラム)の実現を目標とした学問である。本講義では、このような人工知能の基本的な概念について説明し、これらの概念を取り入れた人工知能システムのシステム化技術について述べる。ここでは、人工知能システムは、主に、機械学習を適用したシステムに限定するものとする。
	ソフトコンピューティング特論		2	ソフトコンピューティングは、従来手法では解析できない、あるいは扱いにくかった複雑な問題を取り扱う計算技法の総称である。ニューラルネットワークや、遺伝的アルゴリズム、ファジィ理論などに代表されるソフトコンピューティング手法は、不精密さ、不完全さ、不確かさを許容し、扱いやすさ、頑強性、低計算コストを達成することを目的とし、実世界の複雑であいまいな問題の解決に重要な役割を果たす。本講義では、ソフトコンピューティングの基本的な概念について学ぶ。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 情報システム	機械学習特論 A		2	本授業では、機械学習手法の基本的な枠組みである教師付き学習と教師無し学習について説明し、教師付き学習の手法として、回帰分析、決定木、ランダムフォレスト、サポートベクターマシン等のカーネル手法について説明する。また教師無し学習の手法として、k-means 法、階層的クラスタリング、自己組織化マッピングについて学習する。また原データを学習データ、パラメータ評価用データ、テストデータの3つに分割し、モデルの汎化性能を評価する方法やクロスバリデーションによる方法についても学習し、大学院の研究において、適切にモデル評価が行えるようになることも狙いとす。
	機械学習特論 B		2	本講義では、機械学習の中で、深層学習(ディープラーニング)が注目され、さまざまな問題に適用されている、深層学習を取り扱い講義する。具体的には、深層学習に必要なとなる数学、ニューラルネットワーク、深層学習の仕組み(アルゴリズム)、畳み込みネットワークについて述べる。さらに、Tensorflow や Keras フレームワークを利用した Python プログラミングによる実装についても説明していく。最後に、深層学習の最近のトピックスについても取り上げる。
	環境情報特論A		2	地域環境から地球環境にいたるまでの「人間-環境システム」に関する諸事象を情報の観点から整理し、レジリエンスを高めながら環境資源を持続的に利用するための理論と技法について講義する。特論Aでは、現実の世界から情報を効率的に取得、統合処理して、住民や行政の意思決定に結びつける効率的なプロセスに関する「空間情報科学」に関する事項と、環境の持続可能な利用に関する学問的に裏付となる「景観生態学」に関する事項を概説し、理論と実践を結びつけるアプローチについて講義する。
	環境情報特論B		2	特論Bでは、自然環境と社会環境の両方を含む現実世界(リアル・ワールド)から情報を取得し、情報空間(サイバー・スペース)で様々なモデリングを通して実効ある施策の候補を見だし、それに関して住民が関わりながら施策を絞り込むようなプロセス(環境コミュニケーション)を支援する情報システムづくりに関して論じる。特に環境資源の持続的利用を考える際に重要な視点となる生物多様性の保全の問題を取り上げ、景観生態学の観点から地域の環境質をグリーンインフラ・マップに表現し、持続可能でレジリエンスを高めたコミュニティ実現に結びつける方途について講義する。
	環境マネジメント特論		2	人間活動の影響によって生態系は大きく改変され、生物多様性が減少した結果、人間が様々な形で享受する生態系サービスが劣化しつつある。生物多様性や多様な生態系を保全しながら生態系機能を維持し、人間が生態系サービスを持続的に利用するために重要な手段が環境マネジメント(エコシステムマネジメント)である。本講では、エコシステムマネジメント(ecosystem-based management)に関連する論文や教科書を読み解きながら、その背景となる生態学の理論や、その実践に有用な地理情報システム、リモートセンシングについて概説する。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 情報システム	空間情報特論		2	空間情報工学を支える先端技術には、人工衛星や航空機搭載センサによるリモートセンシング、地理情報システム(GIS)、位置を捉えるGPS(汎地球測位システム)、デジタル写真測量がある。これらは地球規模の環境問題から、私達の身近な安心・安全のための防犯システムまで、幅広い分野で活用されている。そこで、本講義では、実利用を概観しながら、先端技術(人工知能と機械学習)を用いたデータ取得・計測、解析、表現手法等の技術要素に対して論じる。
	環境リモートセンシング特論A		2	環境リモートセンシングの原理と応用について、陸域の植生リモートセンシングに焦点をあてて概説する。リモートセンシングのための放射物理学の基礎、植生の放射特性、植物群落の構造と機能、光学データ処理、地球観測システムなどを論じる。
	環境リモートセンシング特論B		2	植生リモートセンシングの応用的技術と環境や農業分野への適用について概説する。植生特性の観測とスペクトル情報の利用、群落構造の多方向性リモートセンシング、群落の物質・熱交換、環境分野へのリモートセンシングの総合的応用などについて論じ、これらの技術の応用分野への適用を自分で構想できるようにする。
	数理科学特論 A		2	数理計画による最適化や(離散事象型)シミュレーションは、意思決定やデータ分析において非常に重要である。本講義では、これらについての演習を通じ、実践的な能力を身につけることを目指す。前半では、線形計画問題や各種の組合せ最適化問題を解けるようにするとともに、列生成法、ラグランジュ緩和法、ベンダーズ分解原理などのより高度な求解アルゴリズムを学ぶ。後半では、メタヒューリスティクス、近似解法あるいは様々な待ち行列系システム、離散事象システムのモデル化の他、シミュレーションを用いた最適化などを取り上げる。
	数理科学特論 B		2	近年注目されている機械学習においても、最適化理論などの応用数学が必要とされる。 本講義では、Python による演習を交えながら、数理最適化の基礎について理解を深める。さらに、数値最適化の AI などへの応用例についても取り上げる。
	情報数理特論A		2	メディア情報処理におけるデジタル信号系の数学的記述を理解し、スペクトル分析、デジタルフィルタ設計の数学的手法を習得する。また、音声や画像を対象とした実際への応用についても演習を通じて理解する。具体的な項目としてはフーリエ解析、離散フーリエ変換、観測波形のスペクトル解析、FIR フィルタの設計、楽音分析、音声分析、イメージ強調処理などを取り上げる。
	情報数理特論B		2	本講義では「ゲーム理論」を取り扱う。ここでの「ゲーム理論」はいわゆるファミコンやパソコンのゲームに関する理論ではない。これは複数の主体が互いに自らの利益を最大にするために相手に対してどのような戦略を持って対すれば良いかを考える理論であり、進化生物学、生態学、経済学、国際政治学などの多くの分野に応用されている。ここではこの理論の基礎的な部分(戦略型ゲーム)について講義する。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 情報システム	複雑系情報科学特論		2	脳や人体、地球や宇宙、経済社会現象などに代表される、多自由度を持ち複雑でまだわかっていない現象は、まとめて複雑系と呼ばれる。この分野では、それらの個々の現象を説明するのではなく、最新の考え方や手法を様々な現象に横断的、総合的に用いて研究を進めることに特徴がある。本講では、1998年以降発達した、新しい分野である複雑ネットワークに焦点を当てる。ウェブのネットワーク、コンピュータのネットワーク、人脈のネットワークなどを含め、様々なネットワークが対象となる。それら現実社会に存在するネットワークには「スケールフリー」や「スモールワールド」と呼ばれる特徴を持つものが多くあり、それらの特徴は、ネットワークが攻撃された時の強度や、ネットワークを通しての情報の伝達に深く関係をしている。
	データ解析特論		2	近年、日進月歩で発展する科学技術に伴い、学際的な研究や技術開発がより盛んに取り込まれるようになった。研究者や技術者には、対象となる専門分野の知識に加え、複合的かつ高度なデータ解析技術と多彩なデータ可視化能力が求められ、データサイエンスの需要はますます高まりつつある。本科目は、データ解析の戦略的な概念と事例を取り上げ、データサイエンスにおいても重要とされるデータの生成から可視化までの一連の流れについて学習する。なお、本科目は欧文誌を扱うため、英語読解能力を必要とする。
	品質マネジメント特論		2	品質システムの機能は品質保証と問題解決機能に大別される。本講座では、問題解決活動に焦点をあてる。具体的には、問題解決活動の進め方と品質管理手法について解説していく。問題解決の進め方ではQCストーリーを取り上げる。品質管理手法では統計的品質管理と呼ばれる統計学を基盤とした手法を取り上げる。また、品質維持のために必要な工程の管理方法と製品品質の検査方法についても紹介していく。
	バイオインフォマティクス特論		2	近年の生体分子の同定・解析技術の高性能化により、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列等の膨大なデータが明らかにされデータベースに蓄積されている。そのため、これらの生体分子データを効率的に解析処理するバイオインフォマティクス(生命情報学)の重要性が高まっている。本講義では、生命科学のバックグラウンドを持たない学生向けに、まずはじめに分子生物学の基礎を講義し、その後、バイオインフォマティクスの基礎と応用について講義する。また、生体分子データから有用な情報を抽出するための情報解析手法や、生体分子に関する有用なデータベースについての基礎知識を習得する。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 社会情報	音響メディア情報特論		2	講義概要:音情報処理について、人間の知覚情報処理、メディア技術それぞれの観点から学び、音メディアを活用する力を身につける。また、音や音楽の主観評価実験と実験データ処理を通して、音情報を人間がどのように処理しているかを科学的に明らかにする手法を学ぶ。さらに、受講生の興味に応じた先進的な音情報処理技術についての文献調査とその内容の発表によって、研究開発および問題解決の実践に必要な基礎的能力を涵養する。
	マルチメディア特論		2	音声や画像などの多様な情報を共通の手段で取り扱っていくマルチメディア技術は21世紀の情報化社会における重要な役割を果たすものと考えられる。このようなマルチメディア技術の基本はデジタル情報処理技術がベースとなっている。そこで、代表的かつ身近なマルチメディア技術である画像処理およびコンピュータグラフィックスを中心に、具体的なプログラムも活用してマルチメディア処理について学ぶ。
	映像情報特論		2	映像情報機器の発達をうけて、映画・テレビ業界のプロフェッショナルではない人々によって、個人レベルによる映像情報の発信が可能な状況となってきた現代において、地域コミュニティ再生のための映像情報の利活用の方策についての検討が求められている。本授業では、地域映像番組のテーマ選択・取材・構成の一連のプロセスを実践することによって、最終的に映像コンテンツを完成させ、これを相対的な評価を受けることをもって、映像情報伝達の本質についての理解を深めていく。
	金融情報特論		2	本講義では、金融市場が発展した経緯を歴史の視点から検証し、市場が抱える課題等を議論することで、金融システムの機能と役割について考察する。特に、本講義では消費者ローンを中心とした金融リテール市場について焦点を当てる。これは近年、国際金融市場を揺るがしたサブプライムローン問題を検証する上でも有益であると同時に、金融市場の長期的な発展を考える上で示唆に富む事例である。
	社会情報特論 I		2	本講義は、社会情報という視点から現代の情報社会の問題について基礎的な考察を行う。表面的な考察ではなく、情報社会の本質を問う様な考察となる。特に社会学的な立場からの考察を通して、現代の情報社会に対する「社会情報」の意義や問題点が検討される。そして、情報社会の本質にある人間関係の特性もあわせて検討される。それは現代社会の基礎構造の検討であり、社会情報の現代的課題の検討でもある。
	社会情報特論 II		2	社会の形成・維持・発展に関与する個人・組織が生産・流通・処理・蓄積する情報としての社会情報のもつ歴史的な文脈性と政治的な作用に着目する。前半の初めでは、社会情報の政治性を扱い、それ以降は「各論」として、社会情報としての漫画の持つ意味、姿、将来について事例を挙げて概説する。具体的には「政治漫画」の歴史・分析枠組み・事例分析の中から、シンボルとしての社会情報の意味を見出していくことを狙いとする。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 社会情報	マスコミュニケーション特論Ⅰ		2	メディアの効果について、受け手の多様性を前提とすることが一般社会ではなかなか受容されない。それは、学問についての我々はすでに従来の知見を十分分かったものとしてそれらを省みることが怠り、より高度の「専門知識」を求めようとする自体——が従来の知識について「半可通」であるからではないのか？本講義では、上記のような問題意識をもとに、マス・コミュニケーションとは何か、その効果とは何か、どのような過程を経て、効果理論が構築されてきたかを概説する。その際に、可能な限り原典を参照してそこから得られるものを現代の視点から整理する。
	マスコミュニケーション特論Ⅱ		2	メディア効果研究の現状が一般に理解されないことは、学問状況の閉鎖性にあることをマス・コミュニケーション特論Ⅰが提示した問題意識を展開させて、効果研究と送り手の関係をより精緻化した視点で検討する。具体的にはいわゆる「経験学派」と「批判学派」の理論を、情報の「極化」現象を素材として、現実構成・認知といった視点から接合し、統合することをめざす。
	会計情報特論		2	「会計」とは、当然のことながら「簿記」と同義ではない。また、「会計」というと「企業会計」を想定することが多いが、それだけではない。本講座では、先ず現行の企業会計制度と将来的方向性について理解した後、それ以外の会計と名がつくさまざまな実務とそれぞれの社会的役割および論理的枠組みの概要を理解することを目標とする。なお、受講者が希望する特定のテーマがあれば、この限りではない。
	人的資源特論		2	企業は成長過程において、事業戦略の策定をとおして「事業機会」を見出す。その事業機会を実現できるかどうかは、人的資源戦略が左右する組織能力にかかっている。 人的資源が不十分のままであれば、見出した事業機会の抑制を選択せざるを得ない状況に陥る。人的資源の不均衡をいかに解消して事業機会の拡大を図るかが、企業成長にとって必要不可欠の課題である。 本講義の目的は、「経営組織」と組織を構成する「個人」の二つの側面から、「人的資源」を戦略的視点で中長期的に捉えることである。組織側の戦略及び個人側のキャリア形成に関わる諸問題を受講者とともに考察する。
	経営情報特論		2	経営学理論を組織行動の視点から理解する。はじめに組織行動の概念と組織行動と組織を取り巻く環境との関係について考える。また、組織と個人の関係についてモチベーションの概念を中心に議論する。さらに職場内における集団行動の視点からチームのマネジメントやコミュニケーション、リーダーシップ、パワーとコンフリクトについて理解する。最後に組織文化や組織の変革といった視点から組織の競争優位性の獲得について学ぶ。
	情報法学特論		2	社会の情報化が進むと、様々なデータ等の利用が盛んになり、これらの利用形態は凄い速さで変容し続けている。この利用形態の変容の結果、新たな利益が生まれ、権利関係は複雑となり、もめ事の原因は多様化していく。そこで企業等の組織では、事前に如何なる事象がもめ事となるのかを予測し、法的リスクを回避するリーガルリスクマネジメント(予防法務)能力が必要になる。本講義では、文献・事例研究により上記に関する基礎知識を学び、法的な見極め力の取得を目指したい。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】 ヘルスケア 情報	ヘルスケア情報管理 特論		2	この講義は、保健医療福祉のなかで活用されているヘルスケア情報管理について、主に診療記録や看護記録などの医療における診療情報の管理について学習する。医療看護・介護福祉との情報連携を目指した社会保障制度や健康保険制度などの政策面のことについて焦点を当てながら、とくに診療情報管理に重要なツールである病院経営・管理のためのノウハウはもとより、それらの情報の管理・解析、情報の開示、診療記録や看護記録などの監査と精度管理、さらには電子カルテシステム、医事会計システム等のIT対応・技術などについての理解を深める。
	ヘルスケア情報教育 特論		2	身体的、精神的、社会的に健康であることは、人々のウェルビーイングを支える要因である。ただ、現代は「ストレス社会」であり、悪性ストレスが心身に否定的な影響を与え、QOLを低下させ、生活習慣病や精神疾患要因になることもある。そこで、本授業では、ヘルスカウンセリング学・臨床心理学の知見や心理療法を通して、患者のウェルビーイング実現のためのヘルスケアについて考察する。また、受講者のヘルスケア技法向上のため、患者との「接し方・リスニング法・メンタルヘルス支援法」などの健康行動支援技法の演習も取り入れる。
	診療情報学特論		2	診療記録に含まれている情報は、診療の継続、医療従事者の研究および教育・病院経営、公衆衛生上において大変重要です。この講義は、診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門的な知識を学び、その価値を最大限発揮させることができるよう公的な記録として管理する知識を学びます。
	ヘルスケアイノベーション 特論		2	今日、保健・医療・福祉サービス分野では様々なアクターが複雑に相互に作用しながらイノベーションを創発しつつある。サービス・ドミナント・ロジックを理論的支柱に据えて、サービス・イノベーションの様相をとらえてゆく。医薬品、医療機器、情報システム、ケアやキュアに関する技術革新、方法論など多彩なテーマを取り扱う。また、進化経済、制度経済、社会共通資本の理論的枠組みを押さえて、サービス・サイエンス、社会進化という視点からサービス・エコシステム(サービス生態系)に関する知見も深めてゆく。
	遠隔看護特論		2	遠隔看護(テレナーシング)とは、ICTを活用して遠隔地から看護職が看護相談や保健指導を行うことです。在宅慢性疾患療養者が増える中、その管理や支援へ向けた遠隔看護の技法を身につけ、看護の実践に役立てることは極めて重要となっています。この講義は、在宅療養者を支える遠隔看護の役割と可能性について、遠隔看護の独自の役割とニーズ、および、それらの技法についての学びを深める。

【科目区分】 系列	授業科目	単位数		講義概要
		必修	選択	
【専門】共通	修士特別研究	6		「修士特別研究」においては、各院生の研究テーマに対応した研究活動や実験を行い、その成果を評価・整理していくことで、多様化・複雑化する情報化社会における諸問題を的確に捉え、主体性を持って問題解決に関与、貢献する能力を身に付ける。また、学会の研究論文や修士論文の作成を通して、与えられた問題を論理的に思考し、解決策を提案・発信する能力を修得する。
	修士特別演習	2		「修士特別演習」においては、口頭発表や修士論文発表会などにおいて、各院生の研究に関するプレゼンテーションを行うことで、研究成果や解決策を社会に発信する情報発信力、コミュニケーション能力などの研究の素養を修得する。また、学会参加、研究討論などの場を通して、専門的内容に関する説明や討論などを主体的に進めるための態度を修得する。
	修士特別講義	2		現在、社会における実務において、プログラミング、データサイエンス、統計、機械学習に関するスキルの習得が重要となっている。本講義は、実務に着眼し、データサイエンス・統計・機械学習に関する基礎として、統計処理、機械学習、データ加工・分析などを習得するとともに、その応用分野である経済・経営分野、ネットワーク・セキュリティ分野、画像分野に関して、実務を想定した実データやオープンデータを用いて、それぞれの分野の実務に役立つ専門知識やデータ加工・分析手法などを習得する。
教職	情報教育学研究		2	デジタル教材の現状とその実用例について学び、実際にデジタル教材の作成を行う。デジタル教材は視覚的な効果が高く、学習者の理解を促進するとともに学習意欲の喚起が期待できる教材を作成する。デジタル教材の開発は、ビジュアルプログラミング言語や汎用 CG 言語などにより行う。さらにデジタル教材の実際の授業への導入方法について検討・導入し、導入後の教材および学習効果について考察を行う。
	教育心理学特論		2	教育心理学の様々な理論や研究方法を踏まえ、現代社会の教育を批判的に見る視点を深め、効果的な教育が成立するための認知的、社会的、文化的環境について議論する。考える力と言語力の育成、環境変化と家庭教育等、現在の教育テーマに焦点をあて、受講生自身の実践と往還して考える力を身につけることを目標とする。そして、自らが関心を持つ教育心理学の研究論文の発表・討論を通して、自身の研究計画を策定、精緻化を図る。
	教育内容方法学特論		2	教育方法学の理論について教育実践を踏まえて明らかにすること。また、学校教育において、子どもたちが「何を」学ぶかの問いの「何」について体系的に学ぶこととしたい。
	教育臨床研究		2	事前指導・事後指導からなる理論と教育課題を研究して臨床実践(実習)を行う実践を往還する科目である。大学院で修得した教職関係科目の基礎的理論を基に教育課題を研究し、教育臨床を通して実践的に検証させ、教員として必要な資質能力・実践的指導力をさらに高める。教育臨床(実践)においては、実習先の教員から生徒の発達支援の在り方について指導を受ける。なお、「教育臨床研究」は、教師志望者で「日本学生支援機構」の第一種奨学金返還免除を希望する者が受講対象となる。